

発表のポイント

1Qに続き、**2Qも事業利益^{*1}は計画を上回って着地**
上期計画の進捗等を踏まえ、**通期の事業利益見通しを上方修正**

■ 上期総括 事業利益 210億円（前年同期 増益）

- ✓ 国内：エネルギー・添加金属高騰分を製品価格に反映するサーチャージ制価格体系導入効果に加え、事業環境が厳しい中でも利益を確保出来たこと（構造改革効果）により増益
- ✓ 海外：TAA^{*2}の増益トレンド継続に加え、UWH^{*3}の損益も好転し、増益

■ 通期業績見通し 事業利益 380億円（上方修正）

- ✓ 事業環境が期初想定より厳しい中でも、上期の事業利益の進捗及び、追加施策を実施することで、**通期の事業利益を360億円から380億円に上方修正**
- ✓ 事業利益の安定的な確保を見込み、**中間配当を45円とし、年間配当を90円に増額**

*1 事業利益 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

*2 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc. *3 UWH : UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

1. 2023年度 上期業績

2. 2023年度 業績見通し

3. 企業価値向上に向けた 資本効率経営の取り組み

4. ご参考データ

1. 2023年度 上期業績



業績 サマリー

事業利益 210億円(前年同期差異 +78億円)

営業利益 129億円(前年同期差異 △32億円)

■ 数量：577千トン 前年同期*1差異 △111千トン

- 缶材:北米における缶材の在庫余剰の影響が長期化し、UATH(タイ)*2、TAA(米国)で販売が減少
- 自動車関連:生産の回復に伴い、着実な販売が継続
- 厚板:半導体製造装置向け厚板の市場在庫増加によって販売量が減少

■ 事業利益：前年同期差異 +78億円

◎増益要因

- 国内事業の損益好転
(価格改定効果、
エネルギー価格、添加金属等の高騰分価格転嫁等)
- TAAの増益
(品種構成、製造コスト改善等)

△減益要因

- UATHの業績悪化
(北米・東南アジア缶材需要の一時的な鈍化)

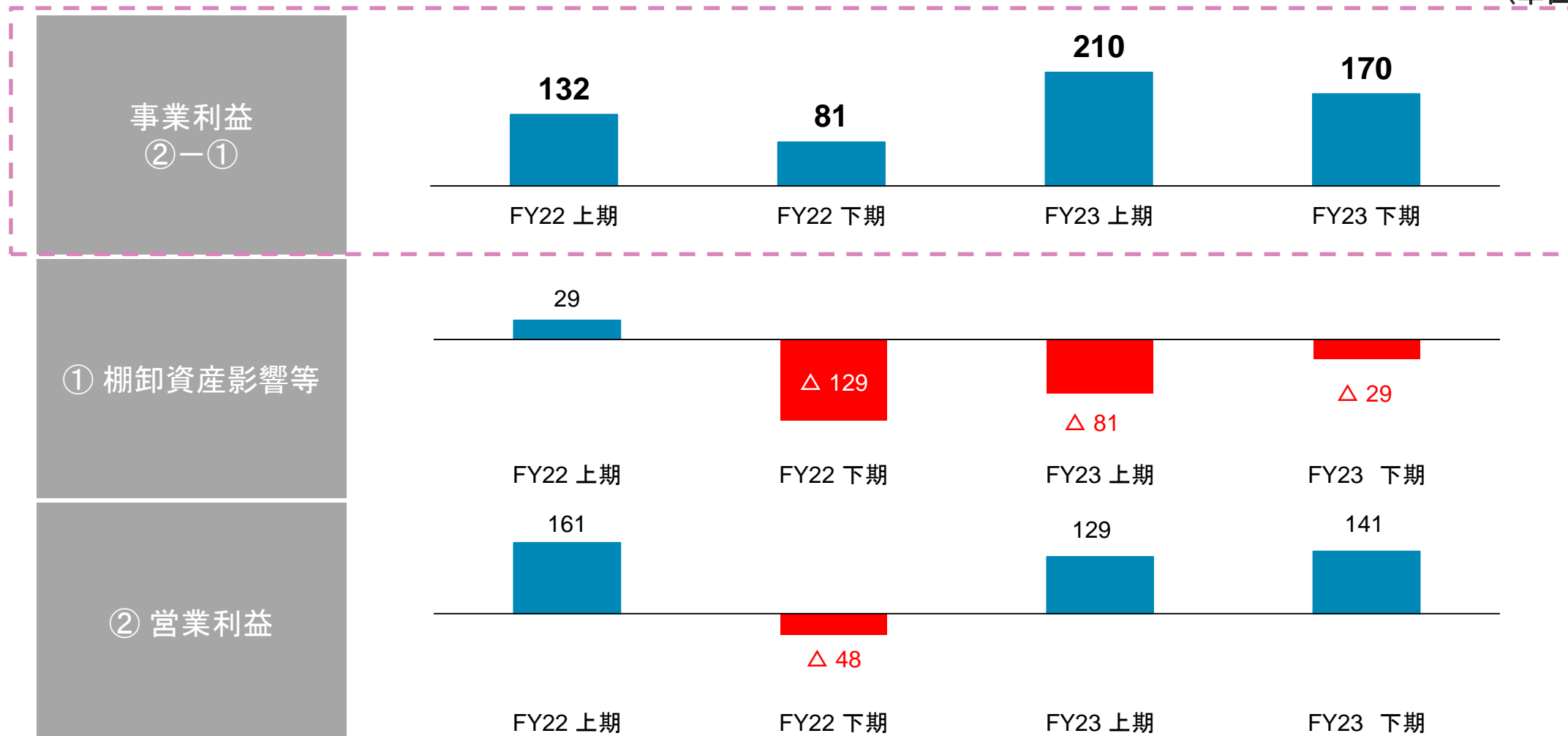
■ 中間配当を増額

- 1株当たり配当金を中間期45円へ増額し、期末45円と合わせ90円とする変更を公表
- 連結配当性向は20～30%を目安とする方針に変更なし

事業利益の定義

「事業利益」は当社の実力ベースの損益で、営業利益から棚卸資産影響等を引いた損益
 1Q実績において、「棚卸資産影響前営業利益」として示していたものと同義

(単位:億円)



上期 業績

(単位:億円)

	2022年度 上期 ^{*1} (A)	2023年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
売上収益	5,011	4,349	△ 662
事業利益	132	210	78
棚卸資産影響	29	△ 81	△ 110
営業利益	161	129	△ 32
親会社の所有者に 帰属する当期利益	94	45	△ 49
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	158	211	53
Adjusted EBITDA ^{*2}	304	391	87

*1 2022年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります
国際会計基準(IFRS)の適用にあわせ、UATHを含む一部グループ会社の会計期間を12月決算から3月決算に変更しております

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位:億円)

	2022年度 上期*		2023年度 上期		増減	
	(A)		(B)		(B) - (A)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	4,443	178	3,743	166	△ 700	△ 12
加工品・関連事業	1,024	12	1,039	21	16	9
(調整額)	△ 455	△ 29	△ 432	△ 58	23	△ 29
合計	5,011	161	4,349	129	△ 662	△ 32

* 2022年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2022年度 上期*1 (A)	2023年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材*2	453	385	△ 68
箔 地	24	22	△ 2
I T 材	5	3	△ 2
自動車材	59	69	10
厚 板	29	16	△ 13
その他一般材	119	83	△ 36
合 計	689	578	△111
	国内市場向け 244 海外市場向け 445	国内市場向け 233 海外市場向け 345	国内市場向け △ 11 海外市場向け △ 100

*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

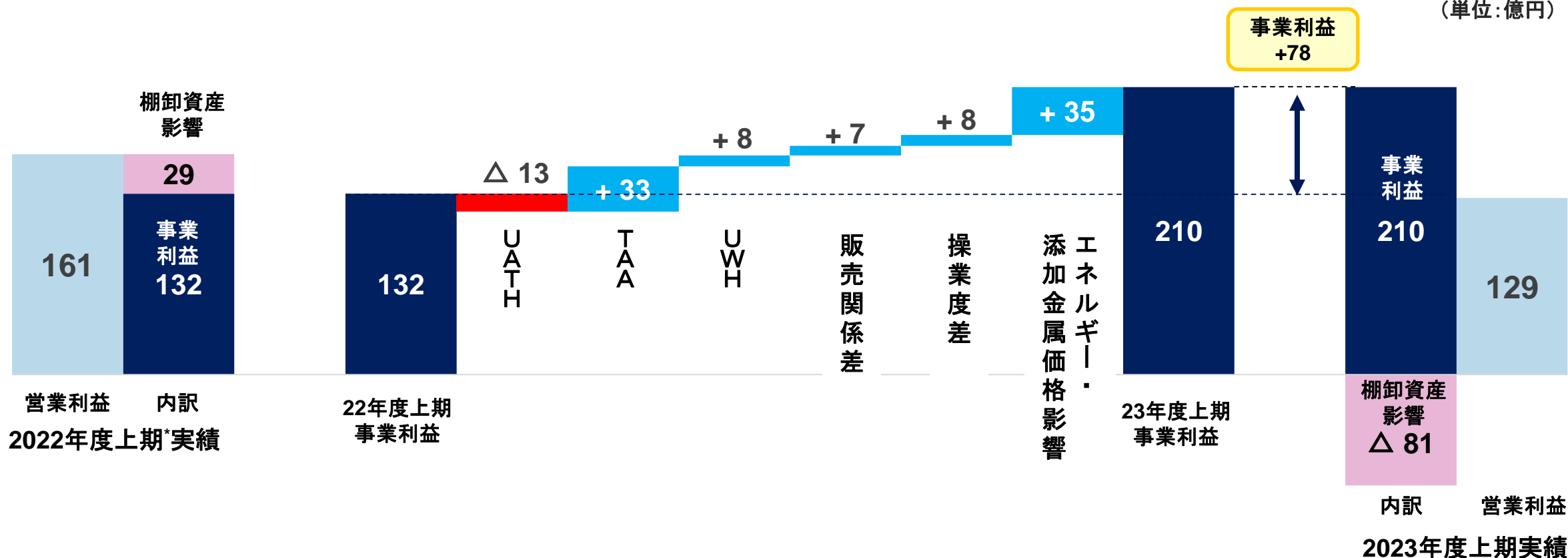
*2 内部取引控除後の数量

事業利益分析 (2022年度上期 → 2023年度上期)

事業利益: **132億円** (2022年度上期) → **210億円** (2023年度上期)

(棚卸資産影響額: 29億円(2022年度上期) → Δ 81億円(2023年度上期)、前年同期差 Δ 110億円)

(単位: 億円)



* 2022年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

連結貸借対照表

販売数量減の影響により、棚卸資産が増加

連結貸借対照表

(単位: 億円)	23/3末* (A)	23/9末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	234	326	92
営業債権及びその他の債権	1,590	1,661	71
棚卸資産	2,287	2,393	107
その他の流動資産	266	233	△ 33
有形固定資産	3,657	3,788	131
その他の非流動資産	924	982	58
資産合計	8,957	9,383	426
営業債務及びその他の債務	1,394	1,372	△ 21
借入金	3,404	3,604	200
その他	1,480	1,514	34
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,465	2,656	191
非支配持分	215	237	22
負債及び資本合計	8,957	9,383	426

資金運用表

	用途	調達
長期資金	設備投資等	192
	法人税等支払	6
	長期資金余剰	83
短期資金	運転資金増減他	29
	短期資金不足	29

長期資金余剰 83億円

短期資金不足 29億円

フリーキャッシュフロー 54億円

長期資金：財務基盤の強化の源泉となる長期資金の創出
短期資金：棚卸資産等運転資金の増加

連結キャッシュフロー計算書

有利子負債残高が増加するも、2023年度末のD/Eレシオ目標1.2は堅持する

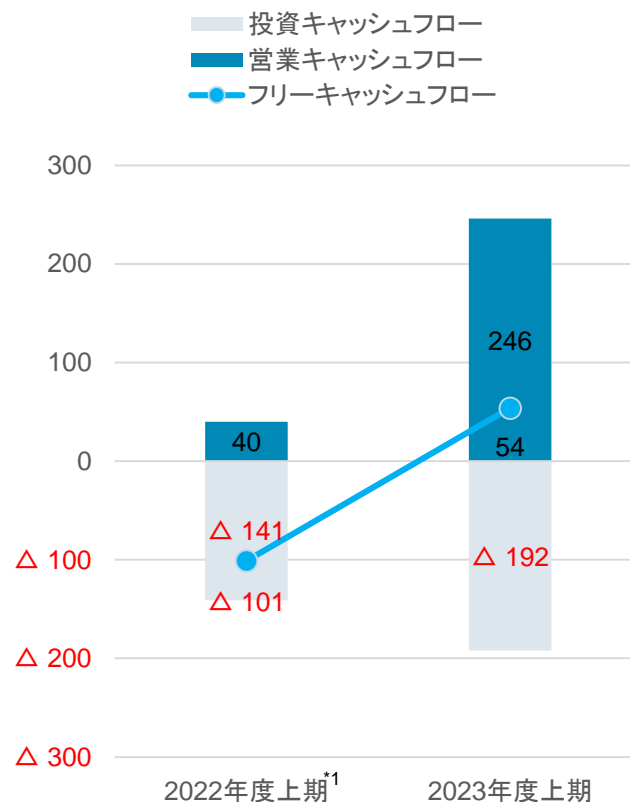
2023年度上期 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

税引前利益	101
減価償却費	180
債権債務増減他	△ 36
営業キャッシュフロー計	246
設備投資 他	△ 192
フリーキャッシュフロー	54
ファイナンススキーム・配当他	△ 61
現預金増減(△は増加)	△ 90
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△ 102
有利子負債(△は増加)	△ 200

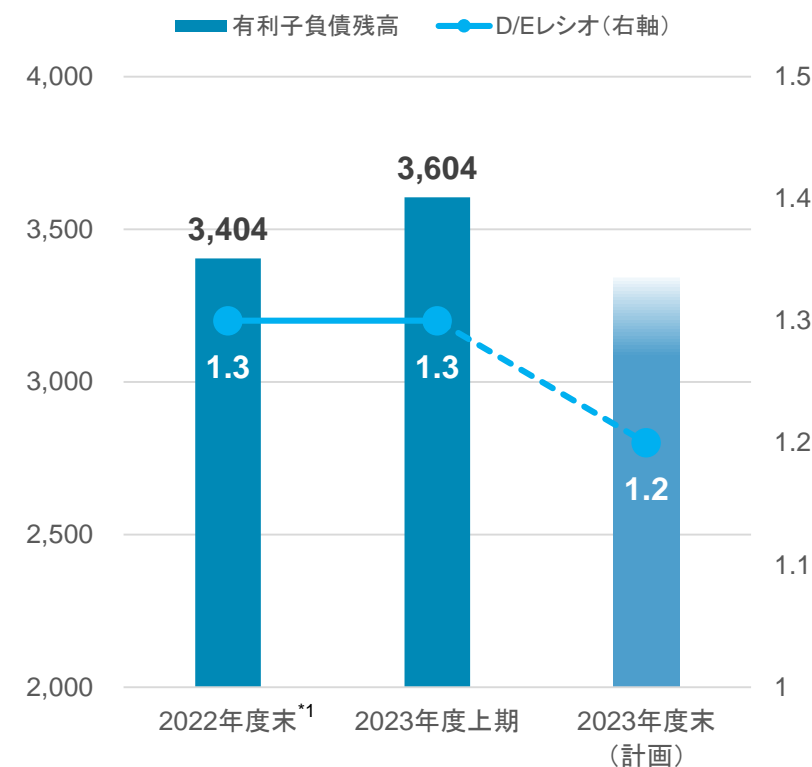
連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ^{*2}

(単位:億円)



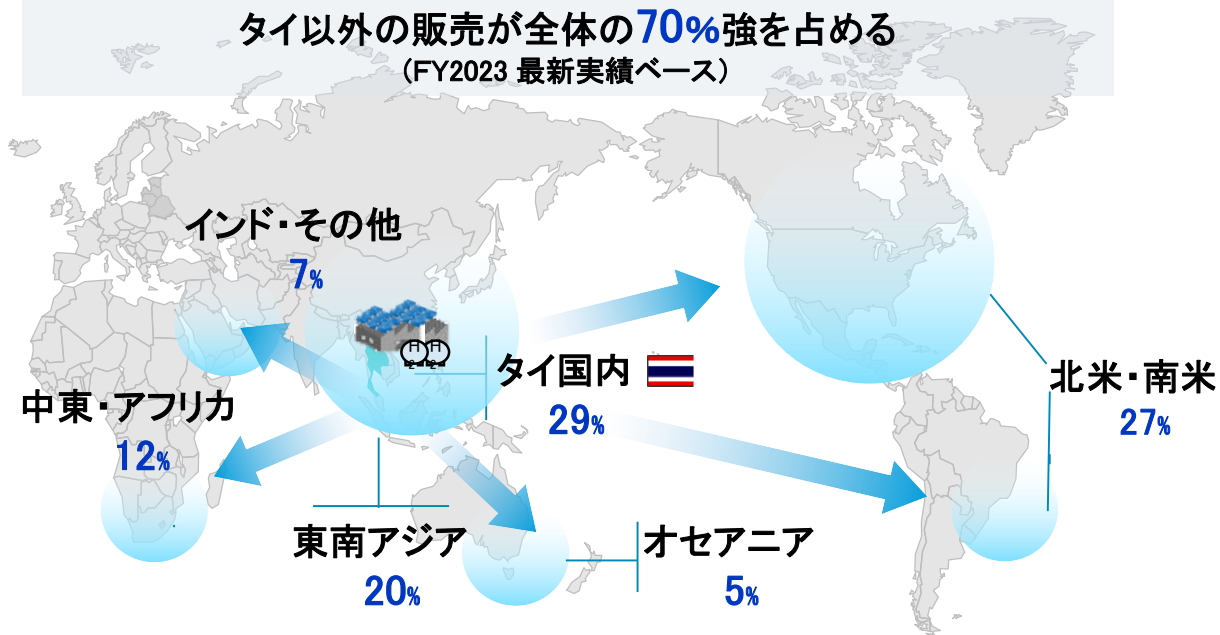
*1 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

*2 D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

タイ(UATH)の状況 ～2023年度上期 総括

北米・東南アジア缶材需要の落ち込みの影響により、販売数量が減少

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



上期総括

- 需要** : 北米・東南アジアにおける缶材需要の回復時期が想定より遅れる
- 販売** : 自動車向け熱交換器材、エアコンフィン材の販売は堅調に推移するも、缶材の販売が落ち込む
- 生産量** : 20千t/月(2023年4～9月)
- 販売量** : 21千t/月(2023年4～9月)
- 損益** :

(単位:億円)

	22年度上期* (4～9月)	23年度上期 (4～9月)	前年度比
売上収益	1,001	692	△ 309
営業利益	△ 8	△ 14	△ 6
事業利益	14	1	△ 13

収益変動要因と改善への打ち手

- 短期的な需要動向によって販売量が急変
- グローバルでの需要環境は変わらず中長期的に成長継続見通し
- 新規顧客の開拓を進め、販売展開エリアの拡大を図る
- 最適生産の追及による生産性の向上
- ロールマージンの改定による収益の確保

米国(TAA)の状況 ~2023年度上期 総括

品種構成・製造コストの改善によって、販売数量の減少をカバー

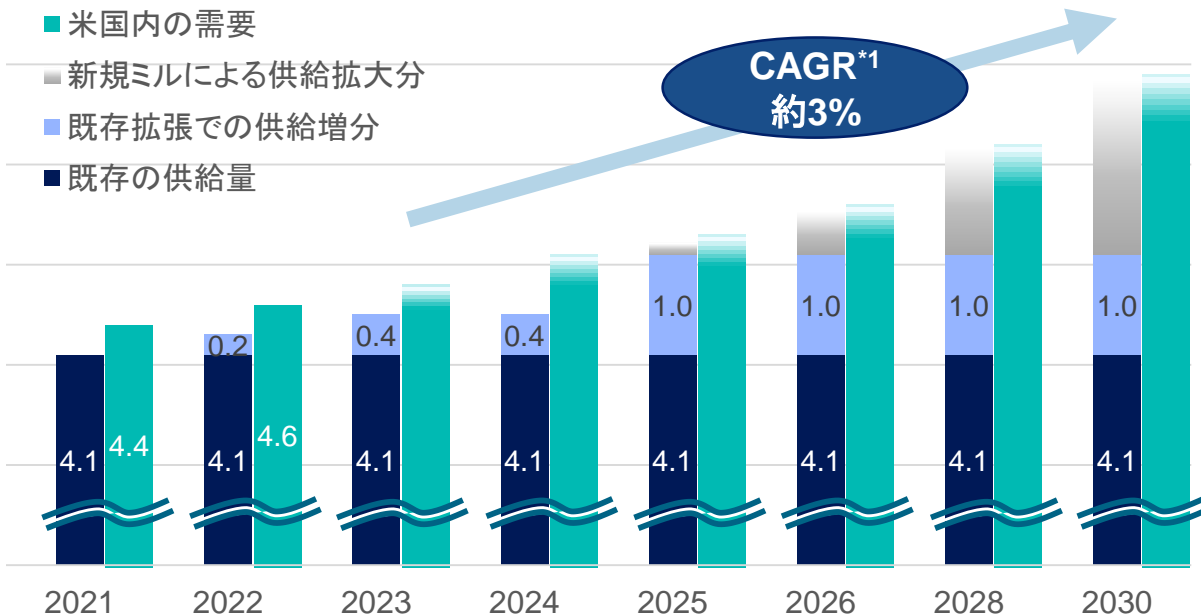
米国缶材需要と国内供給能力の推移



環境負荷を重視する消費者によって
アルミ缶が「プレミアム製品」と認識され
需要の拡大を大きく後押し

(Billion Pounds)

- 米国内の需要
- 新規ミルによる供給拡大分
- 既存拡張での供給増分
- 既存の供給量



出典：UACJ調査による

上期総括

- 缶材需要 : 缶材の需要鈍化は一時的であり、長期的には旺盛な需要環境が継続する見立てに変更はない
- 販売量 : 35千t / 月 (2023年4~9月)
※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力 : 約450千t / 年体制確立
- 増産対応 : 北米生産拠点の設備増強

(単位: 億円)

損益	22年度上期*2	23年度上期	前年度比
売上収益	1,556	1,219	△ 337
営業利益	71	101	30
事業利益	112	146	33

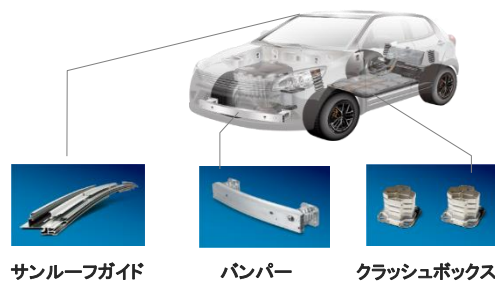
*1 CAGR : 複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率

*2 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

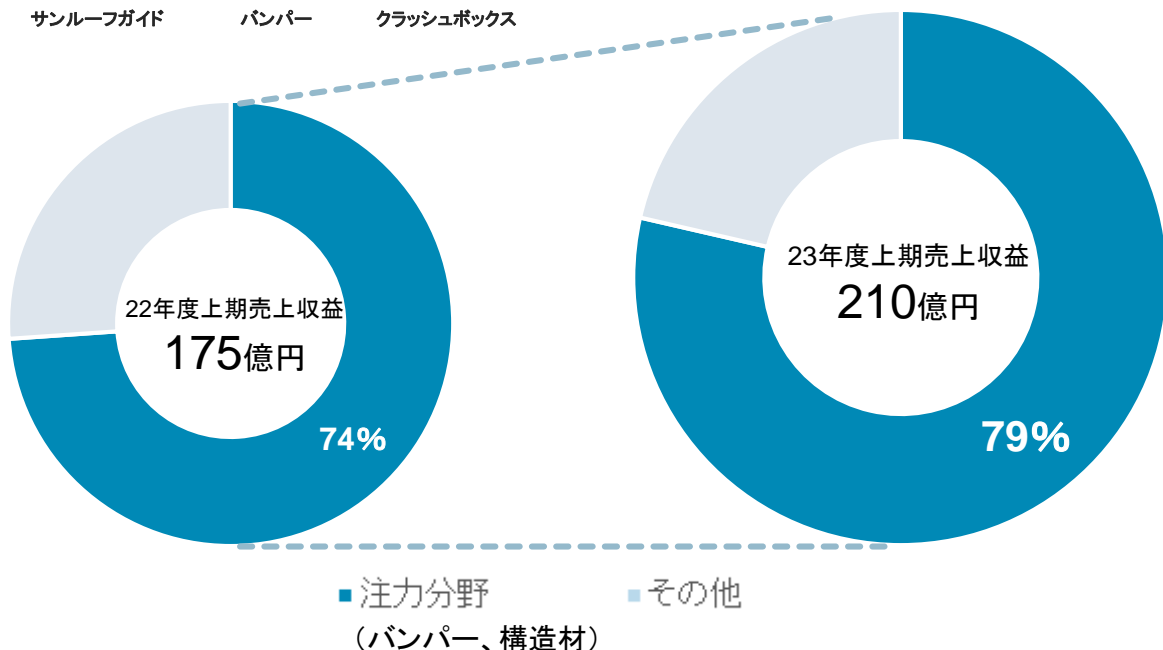
米国(UWH)の状況 ~2023年度期上期 総括

北米自動車生産台数の回復に伴って販売量が増加し、増収増益傾向が続いている

品種構成の推移



UWHが注力する分野の拡販が
確実に進んでいる



総括

- 市場環境** : ・お客様の生産の回復を受け、北米自動車市場は復調傾向にある
 ・北米市場のEV化は継続し、自動車部品に採用されるアルミニウム製品は拡大する予測
- 販売** : 計画通りの注文数確保により、収益は向上

損益

(単位:億円)

	22年度上期*	23年度上期	前年度比
売上収益	175	210	35
営業利益	△ 11	3	14
事業利益	△ 12	△ 3	8

* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

2. 2023年度 業績見通し



2023年度下期の見通しと、2024年度の展望

自動車関連分野は、お客様の生産回復に伴い、需要回復を見込む一方で、北米の缶材および国内の厚板等は、需要の本格的な回復時期を2024年度になると想定

日本

缶材： 飲料用缶材需要は横ばいと見込むも、環境負荷低減ニーズ拡大によるアルミ化を推進
自動車： お客様の生産状況はおおむね回復し、自動車関連は増加
厚板： 半導体製造装置向けの製品需要の回復時期は2024年度上期と想定

北米

缶材： 中長期的に缶材需要が拡大する見通しに変更はない
短期的にはインフレ影響による販売減等により需要回復が期初想定より遅延
自動車部品： 計画通りの注文数確保により、安定した収益の計上を見込む

アジア

缶材： 東南アジアのお客様の在庫調整と、北米缶材需要の調整局面が2024年度上期にかけて徐々に解消する見通し

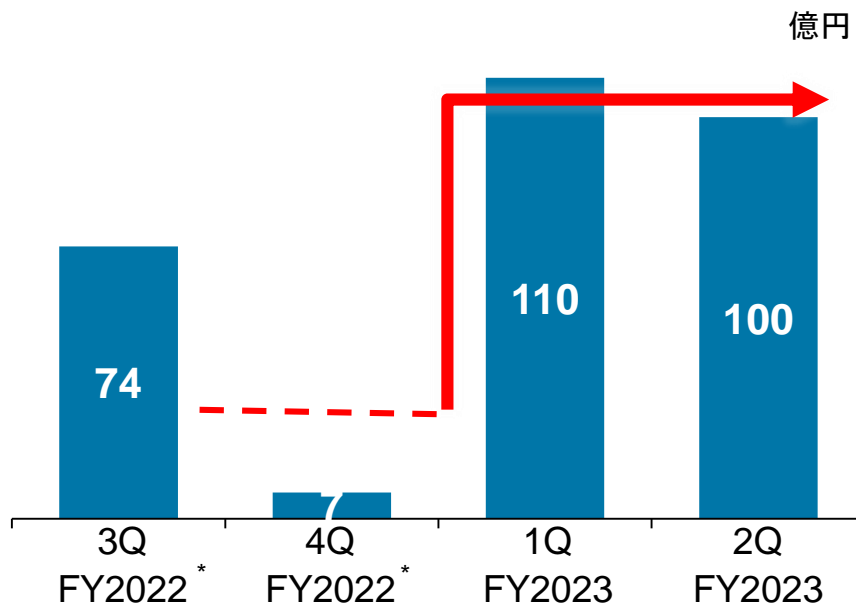
事業環境認識

2023年度通期業績見通しの前提

- FY2023上期： 事業環境が厳しい中でも、事業利益は、国内、海外事業共に対計画を上回る
- FY2023下期： 想定していた北米、東南アジア缶材および、国内厚板需要の本格回復はFY2024にずれ込むも利益水準は上期レベルを維持

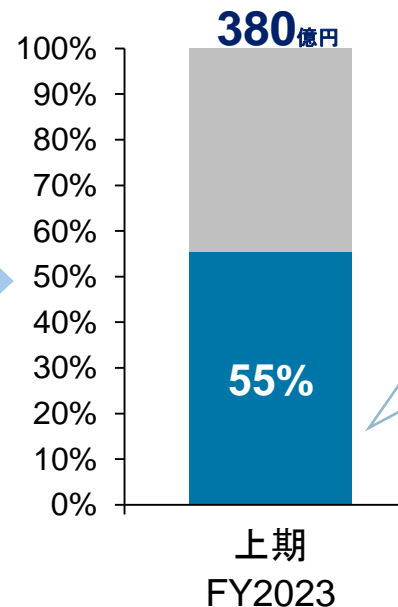


四半期事業利益推移



「稼ぐ力」は FY2022 下期より向上

FY2023 事業利益の進捗率



- ・5月時点から、事業環境の変化はあるものの、稼ぐ力は着実に向上
- ・下期も必要に応じて+αの施策を実施することで年間計画の着実な達成を目指す

2023年度 通期業績見通し

収益改善施策の実行によって事業利益で増収、増配を図る

(単位:億円)	2023年度 (5月時見通し) (A)	2023年度 (最新見通し) (B)	2022年度* (実績) (C)	増減 (B) - (C)
売上収益	9,700	8,800	9,557	△ 757
事業利益	360	380	213	167
棚卸資産影響	△ 20	△ 110	△ 100	△ 10
営業利益	340	270	113	157
親会社の所有者に帰属する 当期利益	150	110	△ 13	123
事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	340	364	119	245
Adjusted EBITDA	723	750	558	192
年間配当	85円/株	90円/株	85円/株	5円/株

セグメント別 売上収益・営業利益(最新見通し)

(単位:億円)

	2023年度 (5月時見通し) (A)		2023年度 (最新見通し) (B)		2022年度* (実績) (C)		増減 (B) - (C)	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
アルミ圧延品	8,700	348	7,810	301	8,372	150	△ 562	151
加工品・関連事業	1,940	55	1,810	34	2,071	25	△ 261	9
(調整額)	△ 940	△ 64	△ 820	△ 65	△ 886	△ 62	66	△ 3
合計	9,700	340	8,800	270	9,557	113	△ 757	157

* 2022年度上期のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2023年度 (5月時見通し) (A)	2023年度 (最新見通し) (B)	2022年度*1 (実績) (C)	増減 (B)－(C)
缶 材*2	880	761	834	△ 73
箔 地	53	46	46	0
I T 材	11	9	9	0
自動車材	142	144	125	19
厚 板	47	34	52	△ 18
その他一般材	203	174	227	△ 53
合 計	1,336 国内市場向け 510 海外市場向け 826	1,168 国内市場向け 478 海外市場向け 690	1,293 国内市場向け 475 海外市場向け 818	△ 125 国内市場向け 3 海外市場向け △ 128

*1 会計期間の変更に伴い、実績値を組み換えています

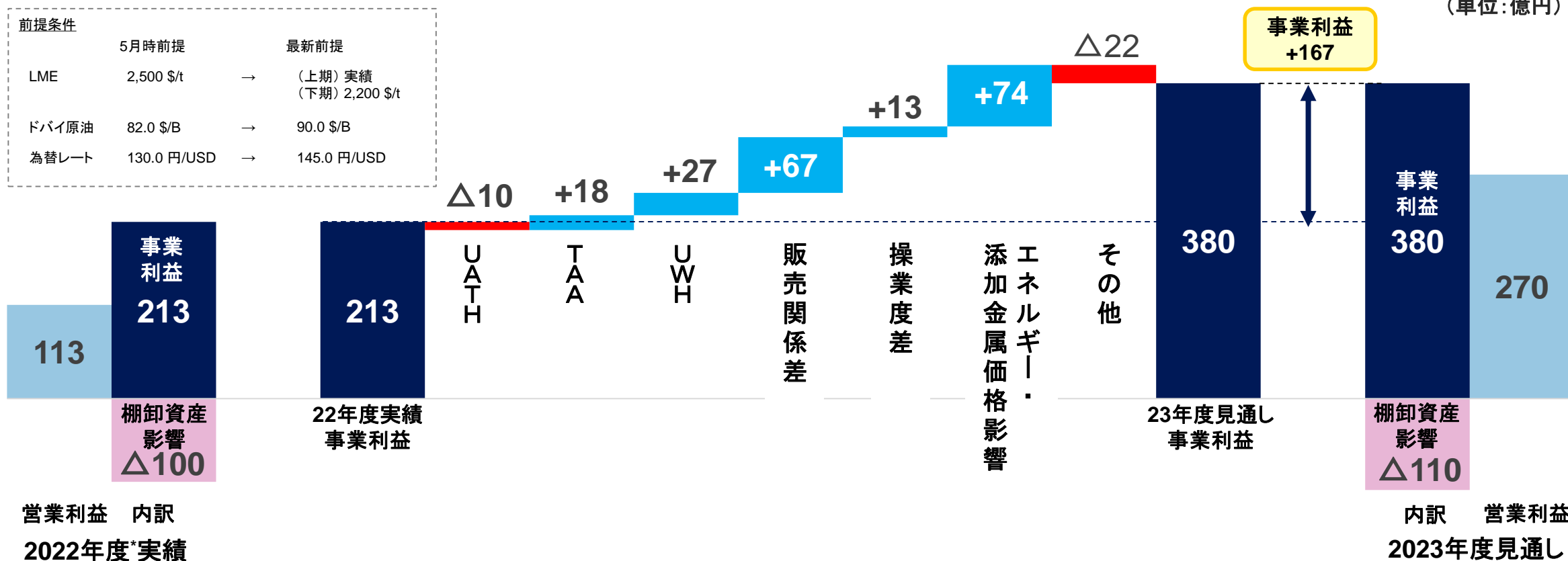
*2 内部取引控除後の数量

事業利益分析 (2022年度 → 2023年度 最新見通し)

事業利益: **213億円** (2022年度) → **380億円** (2023年度見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 100$ 億円(2022年度) → $\Delta 110$ 億円(2023年度見通し)、前年同期差異 $\Delta 10$ 億円)

(単位: 億円)

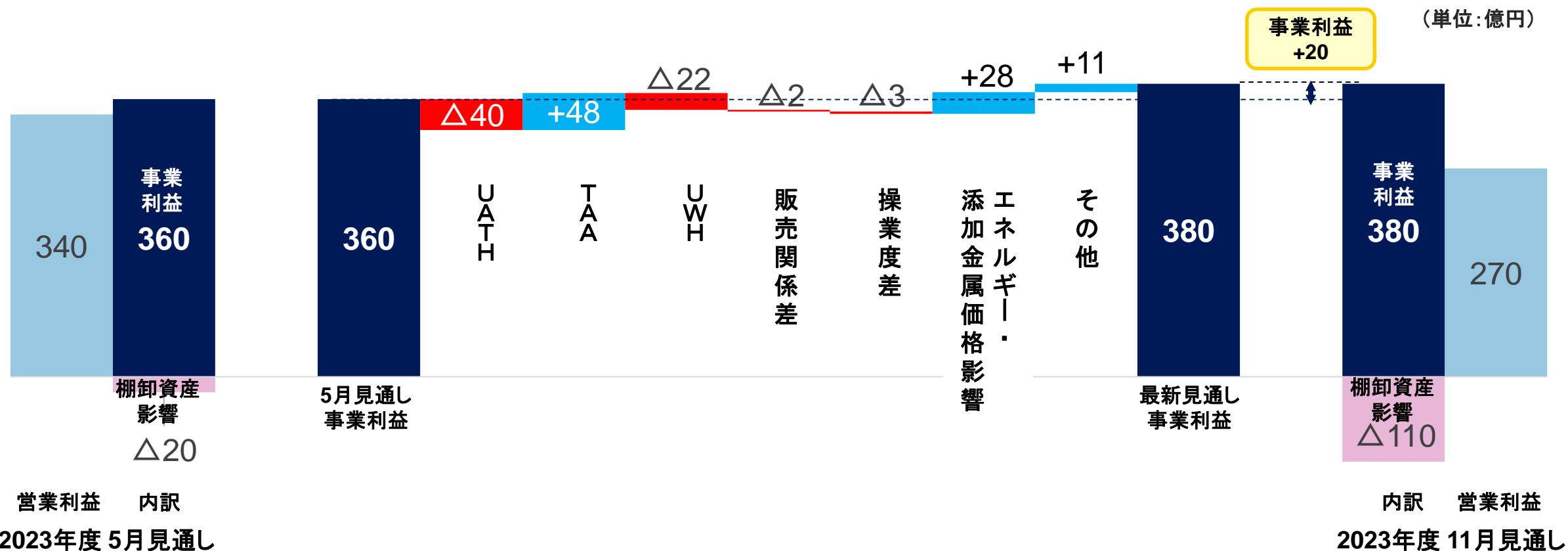


* 2022年度のIFRS実績値は概算値であり、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります

事業利益分析 (2023年5月見通し → 2023年度 最新見通し)

事業利益: **360億円** (2023年5月見通し) → **380億円** (2023年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: $\Delta 20$ 億円(2023年5月見通し) → $\Delta 110$ 億円(2023年度最新見通し)、差異 $\Delta 90$ 億円)



設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却の範囲内を堅持
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

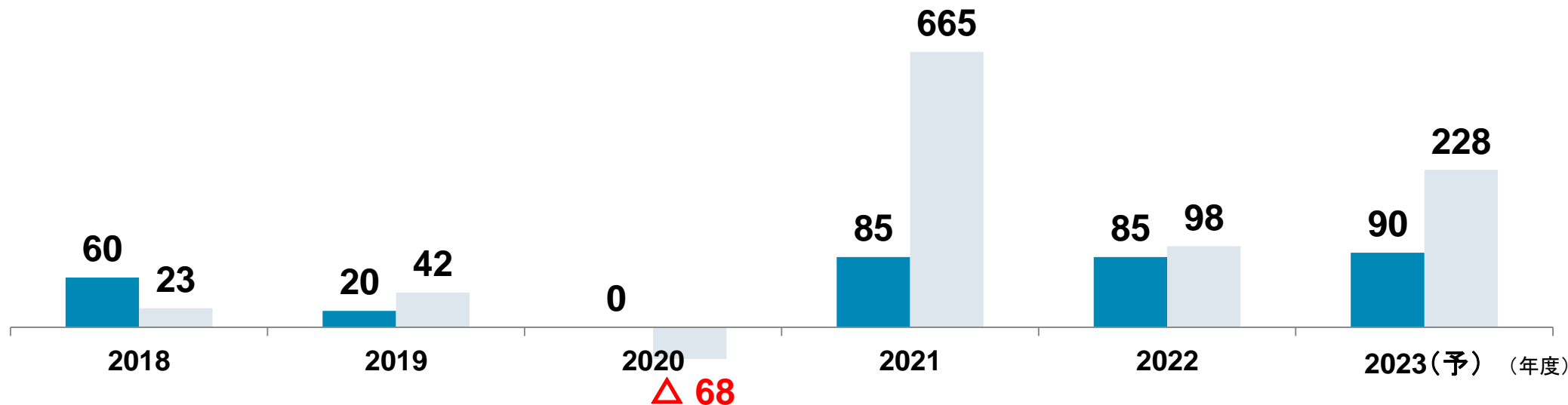
(単位:億円)		2022年度 上期	2022年度 通期	2023年度 上期	2023年度 見通し
設備投資	一般投資	73	210	84	230
	戦略投資	28	54	44	140
	合計	101	264	128	370
減価償却費		182	373	180	370

株主還元

事業利益の安定的な確保を見込み、年間配当を5円増額し90円とする

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



3. 企業価値向上に向けた 資本効率経営の取り組み



企業価値向上の実現に向けた、資本効率を指標とする経営

2023年度の目標を確実に達成し、VISION2030への道筋をつくる

第3次中期経営計画の財務指標として ROE、ROIC、D/Eレシオを設定

- ⇒ ・2023年度は、第3次中期経営計画最終年度として、確実に財務指標を達成するべく利益を着実に積み上げる施策を実行する。
・資本市場との対話を引き続き積極的に実施し、資本市場のニーズを経営に反映する。

長期経営ビジョン UACJ VISION 2030 の財務指標として ROE、ROICを設定

① 株主資本コストの引き下げ、② 期待成長率の向上、③ 株主・投資家との積極的なコミュニケーションに取り組む

- ⇒ 2030年の目標を確実に達成するべく、第4次中期経営計画(2024年～)で具体的な施策を織り込む予定

財務指標 KPI

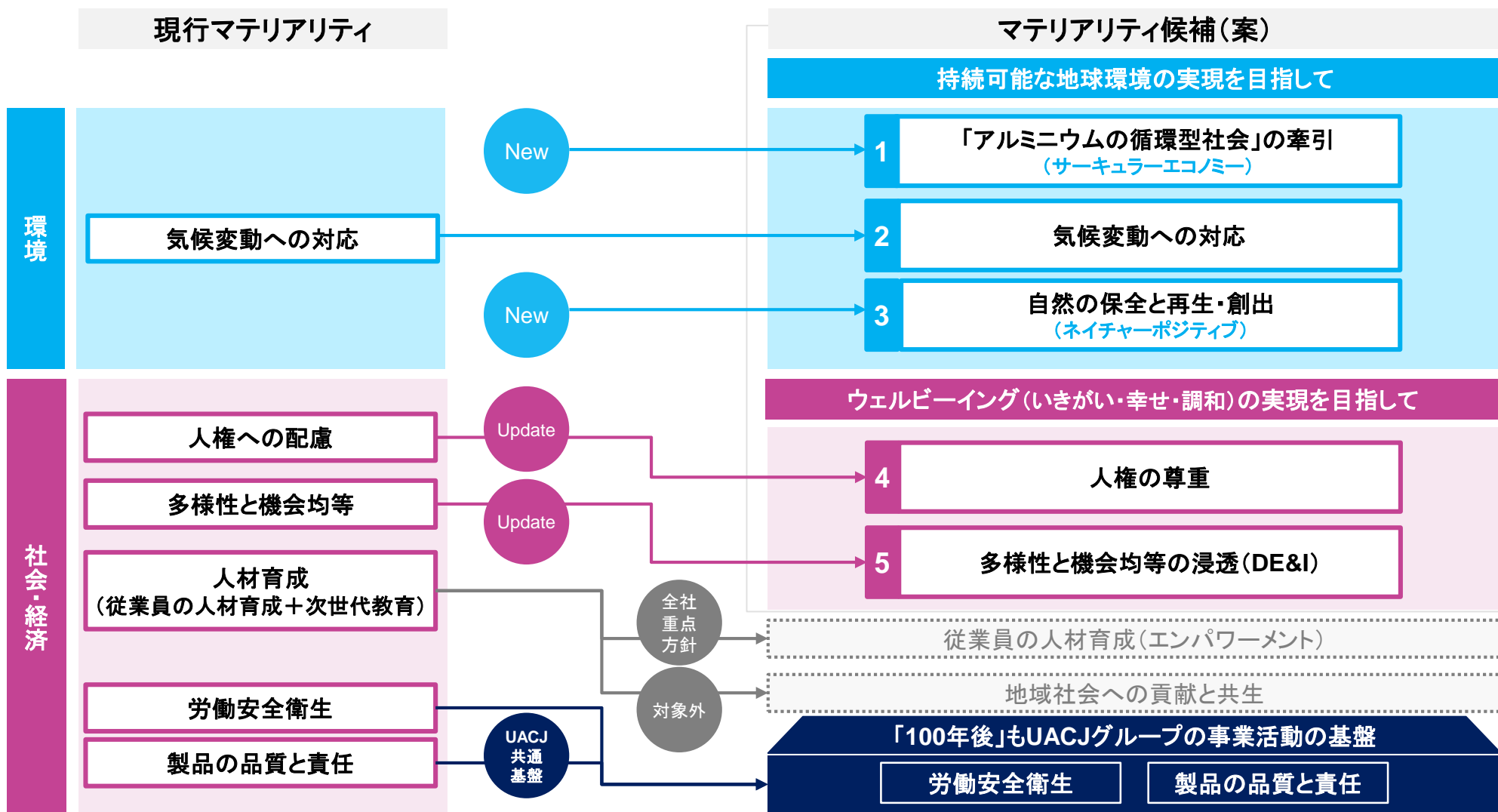
第3次中計期間

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023(予)	FY2030(目標)
ROE	0.6%	1.1%	-1.8%	15.6%	2.0%	4.3%	10.0%
ROIC ^{*1}	2.8%	1.9%	2.2%	11.1%	3.0%	4.5%	10.0%
D/Eレシオ ^{*2}	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	—

*1 ROIC：税引前営業利益を基に算出 *2 D/Eレシオ：劣後ローンの資本性考慮後

マテリアリティの見直しに向けて

マテリアリティを見直し、中長期での企業価値向上を目指す



ESG説明会開催 / 統合報告書発行のお知らせ

ESG説明会 開催のお知らせ

「軽やかな未来のために、アルミができること」と題し、
下記概要の通りESG説明会を開催いたします。
ぜひご参加賜りますようお願い申し上げます。

開催日時 2023年12月7日(木) 10:00~12:00

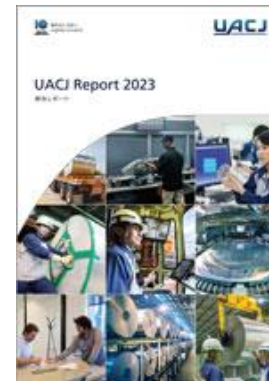
開催形式 オンライン開催(予定)

登壇者	代表取締役社長	石原 美幸
	取締役 常務執行役員	田中 信二
	専務執行役員	山口 明則
	専務執行役員	平野 清一

UACJ Report 2023 発行のお知らせ

経営統合から10年経ての企業としての進化と、
「UACJ VISION2030」の実現にむけた**成長ストーリー**を示すとともに、
「**軽やかな世界へ**」の実現に向けたビジネスドメイン拡大の取り組みや、
「**ものづくりは人づくり**」の考え方に基づいた取り組みを説明したものです。
ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

(HP) <https://www.uacj.co.jp/ir/library/factbook.htm>



4. ご参考データ



上期 業績【日本基準】

(単位:億円)

	2022年度 上期 (A)	2023年度 上期*3 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	5,012	4,350	△ 662
連結営業利益	166	106	△ 59
棚卸資産影響前 連結経常利益	112	166	54
棚卸資産影響額	29	△ 81	△ 110
連結経常利益	141	85	△ 56
連結当期純利益*1	79	27	△ 52
Adjusted EBITDA*2	308	369	60

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

*3 2023年度上期の日本基準実績値は概算値です

セグメント別 売上高・営業利益【日本基準】

(単位:億円)

	2022年度 上期 (A)		2023年度 上期* (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,443	191	3,743	155	△ 700	△ 36
加工品・関連事業	1,024	6	1,040	12	16	6
(調 整 額)	△ 455	△ 31	△ 432	△ 60	23	△ 30
合 計	5,012	166	4,350	106	△ 662	△ 59

IFRSの適用について

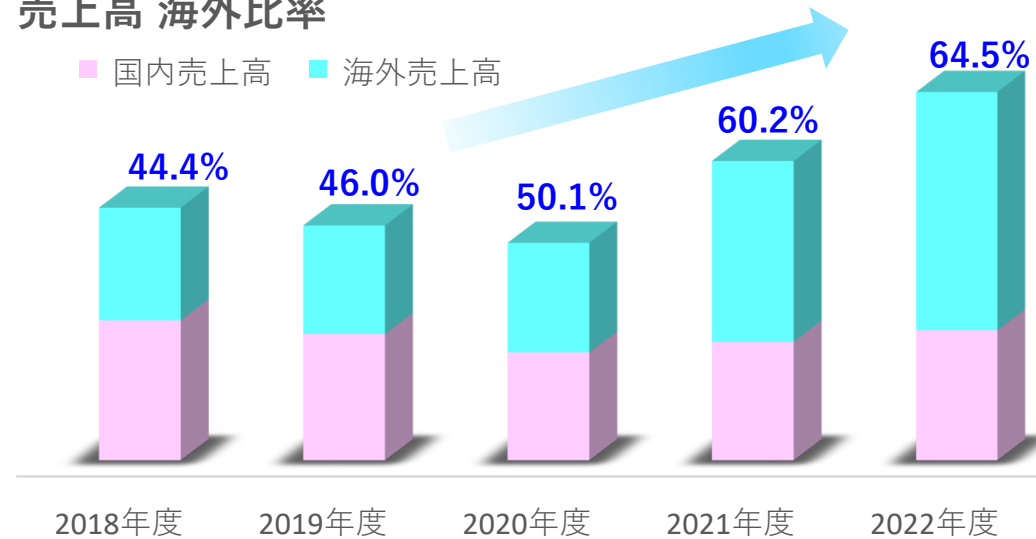
事業活動のグローバル化に対応し、会計基準にIFRS適用

当社グループの売上高・投下資本等に占める海外比率は毎年増加しており、
今後、更に増加していく見込み

- ➡ **グローバルな企業活動の更なる拡大を念頭に、会計面・情報開示面の体制を整備**
- ➡ **IFRSを適用することにより、より多くの投資家の方に当社の理解を深めていただきたい**

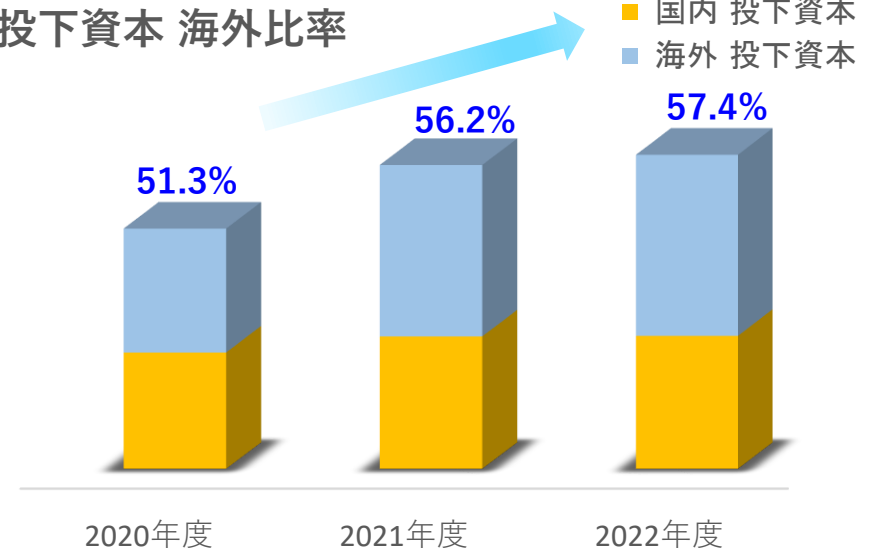
売上高 海外比率

■ 国内売上高 ■ 海外売上高



投下資本 海外比率

■ 国内 投下資本
■ 海外 投下資本



日本基準とIFRSの業績指標比較と変化分析

2023年度上期実績比較(億円)

IFRS		日本基準*	
売上収益	4,349	売上高	4,350
営業利益	129	営業利益	106
-		経常利益	85
事業利益	210	棚卸資産影響前 経常利益	166
棚卸資産影響	△ 81	棚卸資産影響	△ 81
最終利益	45	最終利益	27

- ✓ IFRS適用に伴い業績管理の指標として**営業利益**を使用
- ✓ 営業利益でIFRS適用により以下の調整が生じた
 - のれんの償却停止
 - 持分法損益
 - 特別損益
 - 営業外損益(金融収益費用除く)
 - その他

IFRS適用に伴う営業利益の変化



諸元と感応度

	2021年度 (3月末)	2022年度 (3月末)	2023年度 (2023年9月末)	営業利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	378	408	382	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	2,796	2,490	2,209	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	112	136	141	・燃料単価、添加金属:円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差:円安 が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.8	4.1	
原油 (ドバイ:米\$)	78	92	82	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

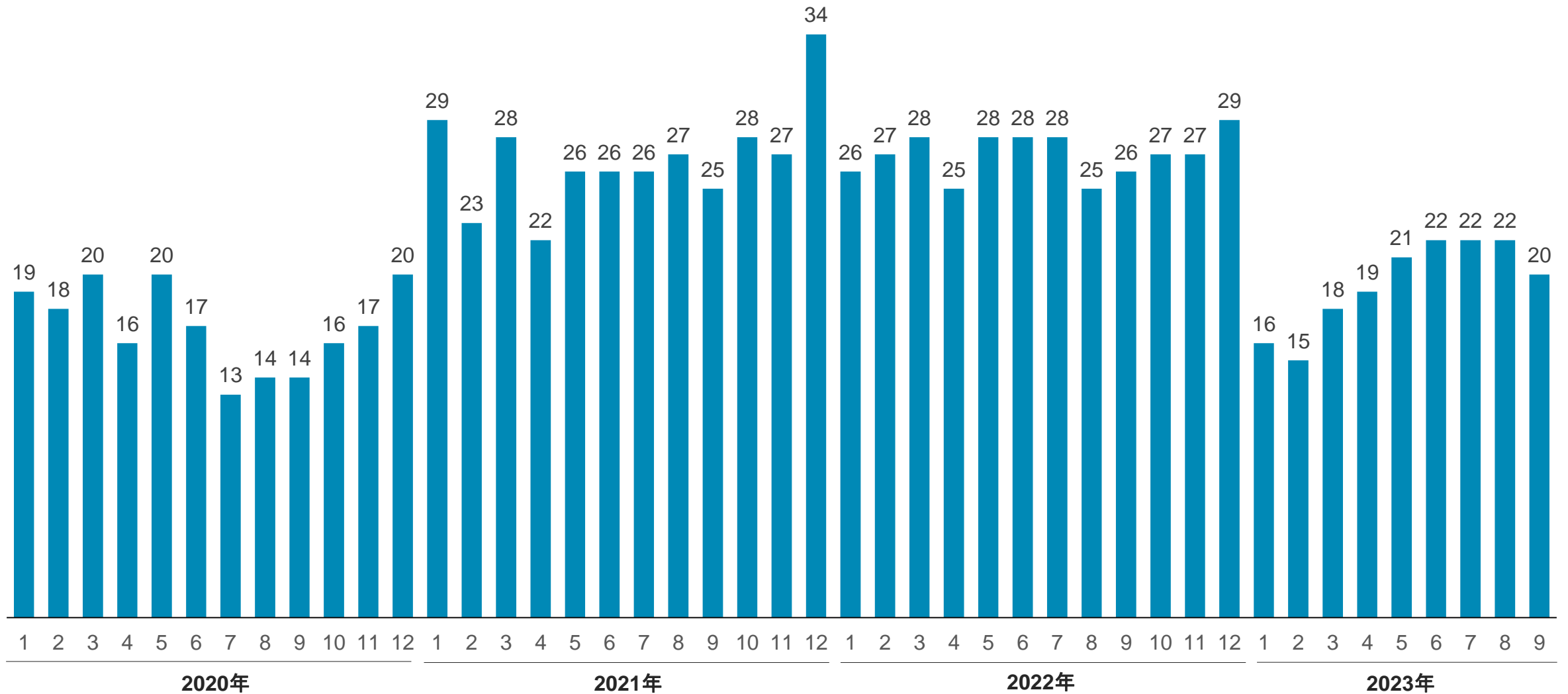
4. ご参考

主要指標推移

日 本 会 計 基 準					I F R S				(単位:億円)
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 1Q(単)	2023年度 2Q(単)	2023年度 上期	2023年度 (見通し)
連 結 売 上 高		6,152	5,698	7,829	9,629	2,111	2,238	4,349	8,800
連 結 営 業 利 益		101	111	595	172	82	47	129	270
事 業 利 益		-	-	-	-	110	100	210	380
棚 卸 資 産 影 響 前 益	連 結 経 常 利 益	98	62	213	161	-	-	-	-
連 結 経 常 利 益		38	60	523	87	-	-	-	-
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		20	△33	321	47	29	16	45	110
設 備 投 資	一 般 投 資	143	109	129	210	32	52	84	-
	戦 略 投 資	347	72	79	54	23	21	44	-
	合 計	489	181	207	264	55	73	128	-
減 価 償 却 費		312	334	340	373	90	90	180	-
有 利 子 負 債 残 高		3,440	3,358	3,394	3,367	3,702	3,604	3,604	-
R O E (%)		1.1	△1.8	15.6	1.9	-	-	-	-
R O I C (%)		1.9	2.2	11.1	3.0	-	-	-	-
D / E レ シ オ (倍)		1.56	1.56	1.36	1.25	1.3	1.3	1.3	-
営 業 キャ ッ シ ュ フ ロ ー		581	386	78	526	△ 23	246	246	-
投 資 キャ ッ シ ュ フ ロ ー		△ 300	△ 210	△ 210	△ 269	△ 88	△ 192	△ 192	-
フ リ ー キャ ッ シ ュ フ ロ ー		281	177	△ 132	257	△ 111	54	54	-
株 主 資 本		1,827	1,775	2,090	2,096	2,083	2,088	2,088	-

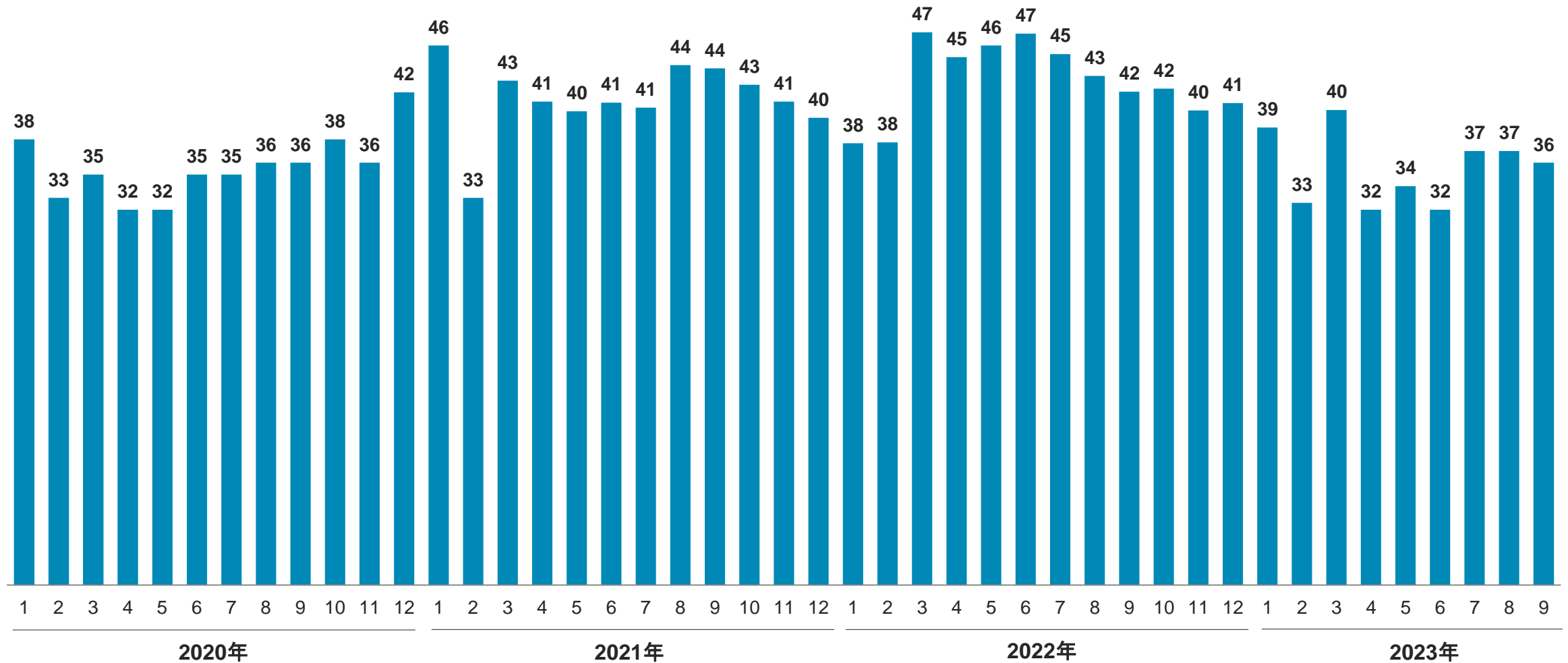
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)

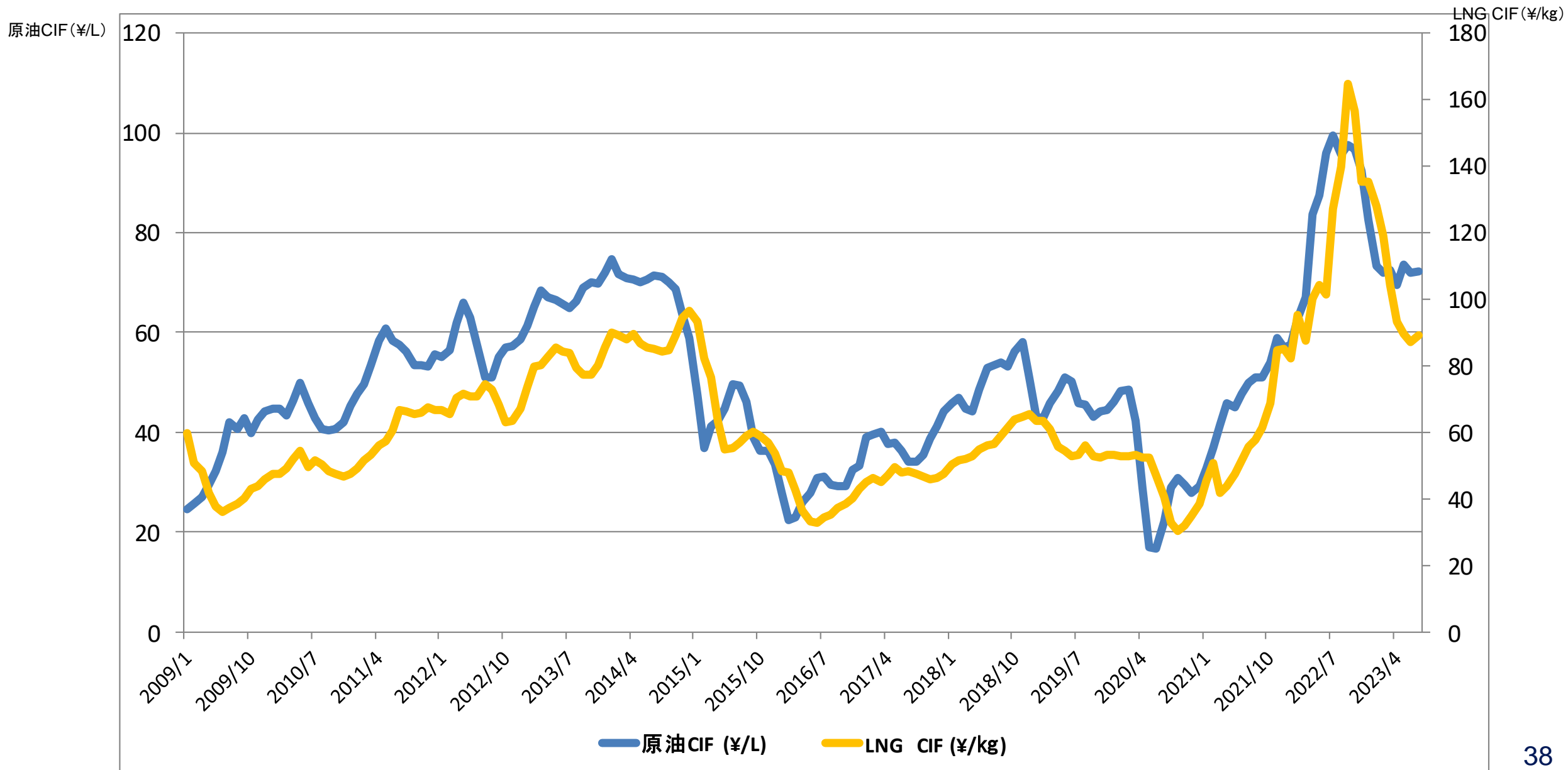


TAA 月次販売量推移

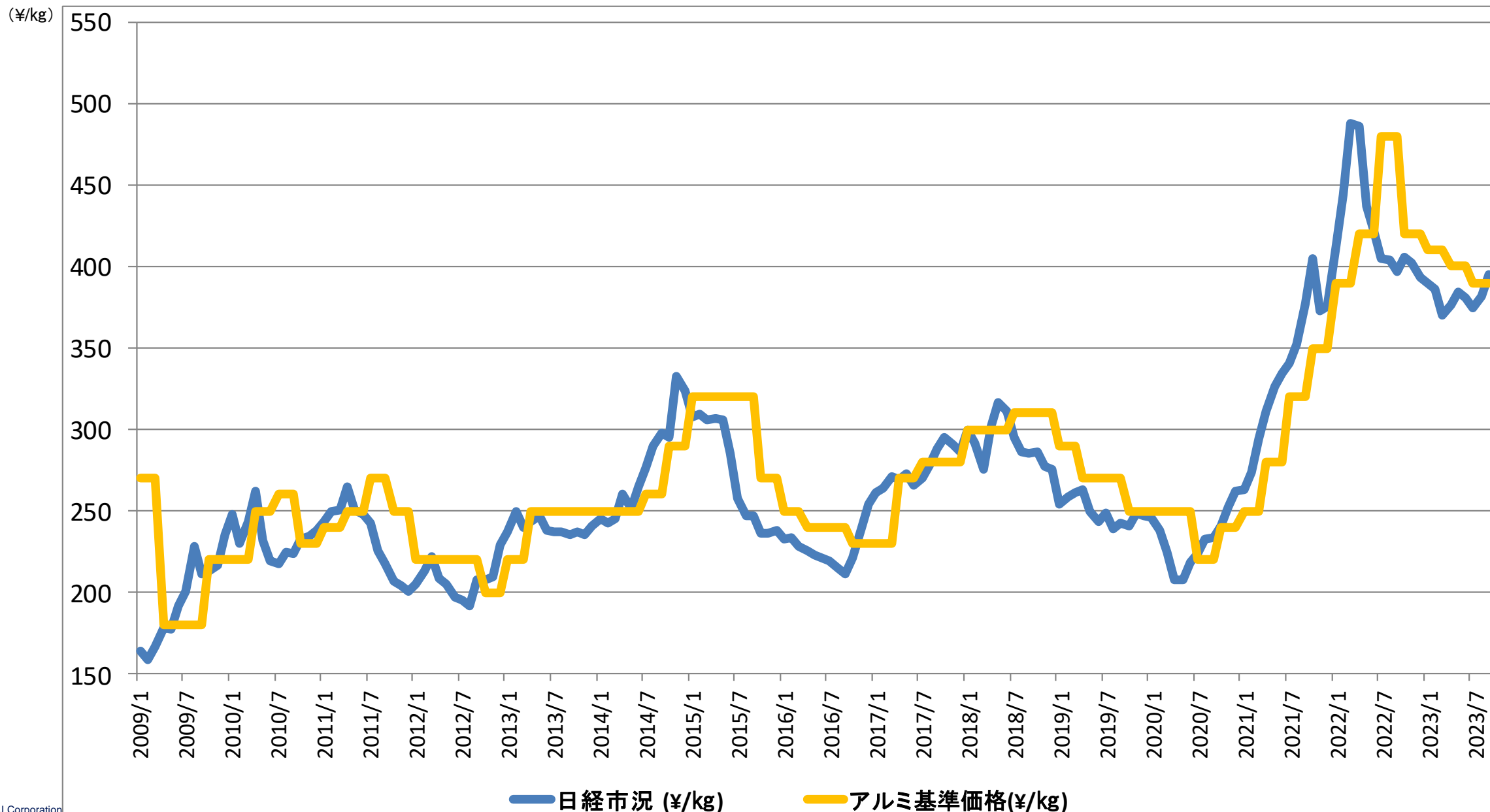
(単位：千t)



燃料単価推移



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



棚卸資産影響

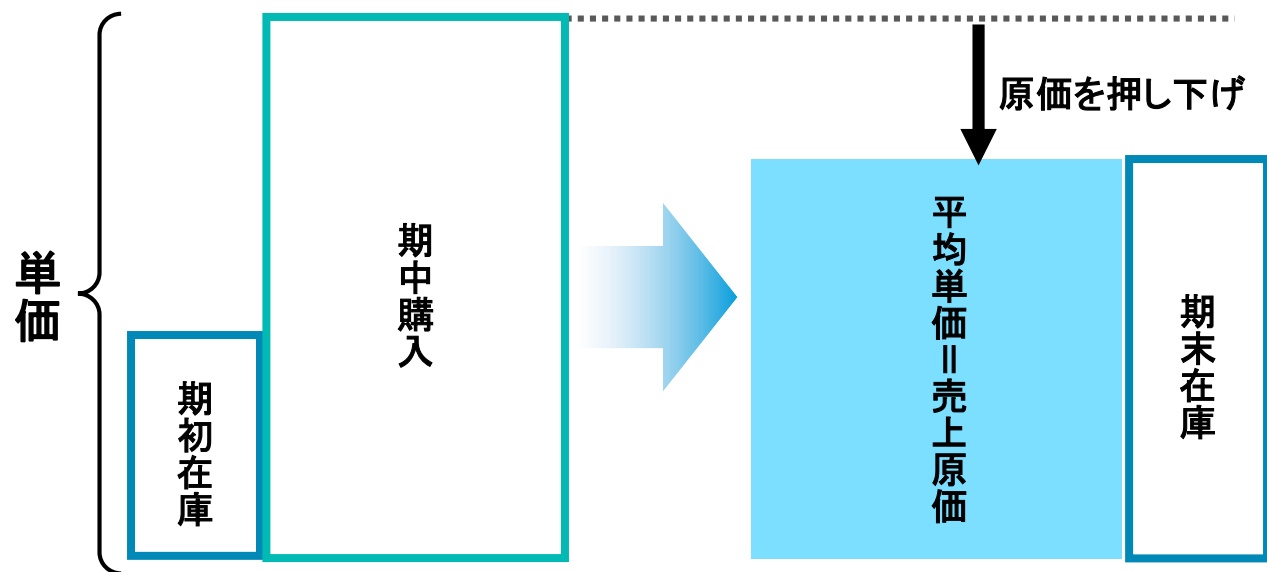
アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

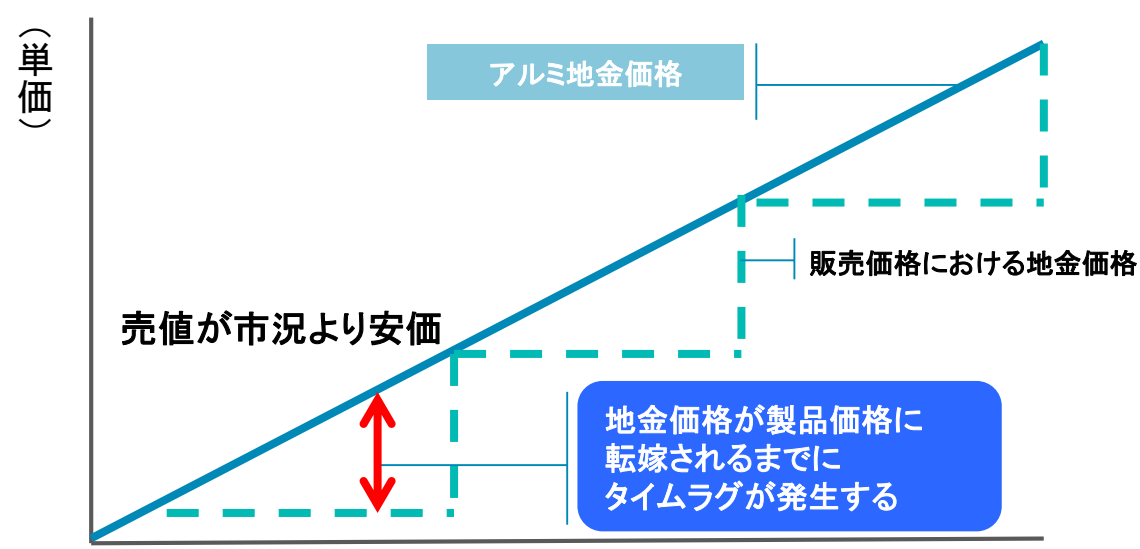
①+ ②= 棚卸資産影響

【アルミ地金価格上昇】

① 平均法による材料費計算






② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



外部環境の変化と対応について

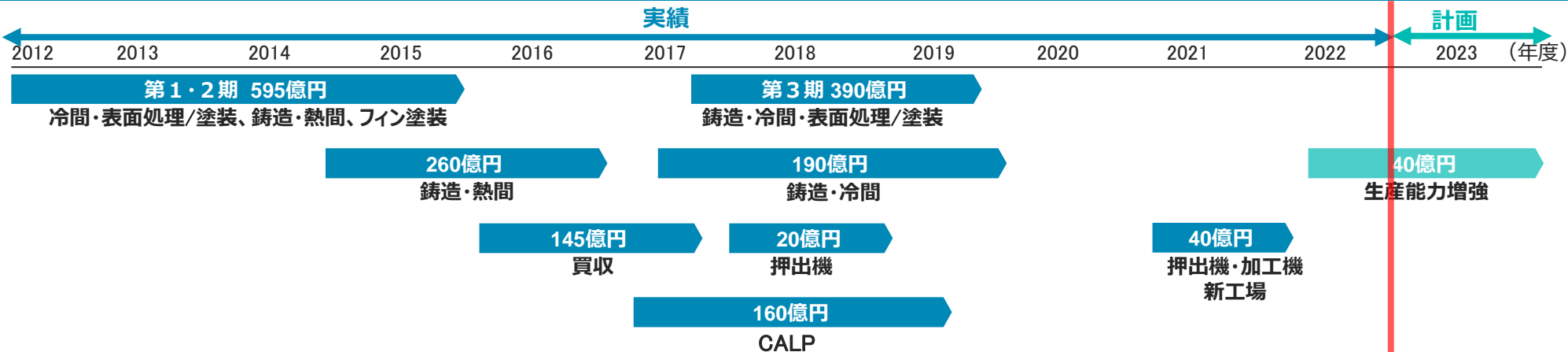
収益の安定化に向け、外部事業環境の変化に強い価格スキームを確立

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り導入済み 電力費用の追加負担分については引き続き検討	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	契約更新(新規含む) 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約期間中の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

4. ご参考

アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ



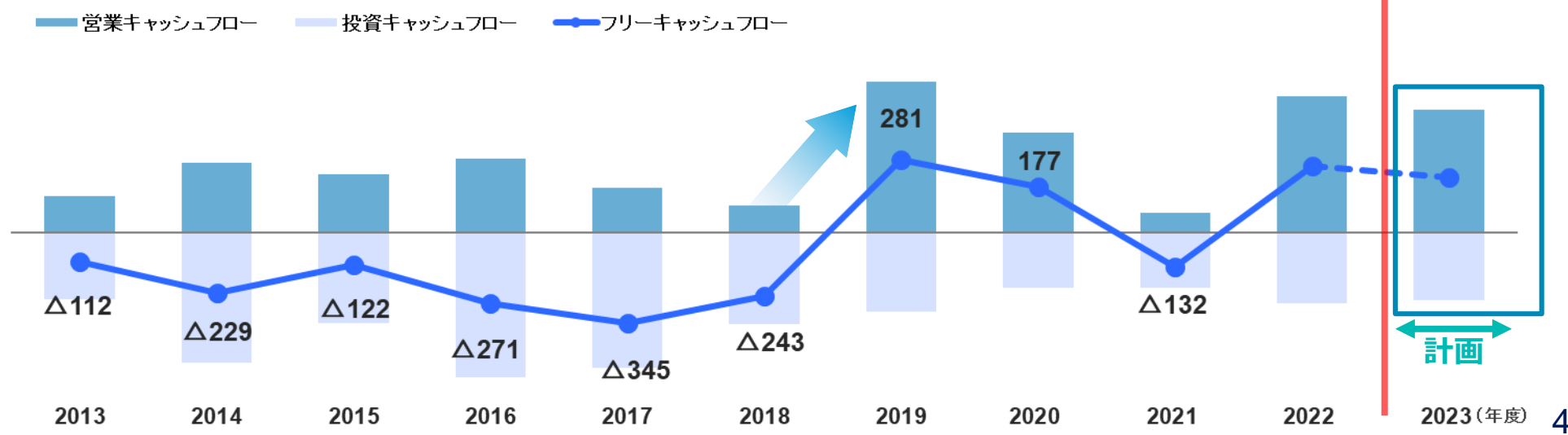
主な戦略投資/投融資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



連結キャッシュフロー

2013-2022年度 実績
2023年度 計画



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界